

小学校から高校まで

英語教育改革のキホンがわかる

英語4技能ガイドブック



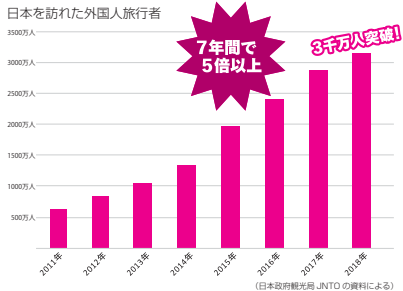
CONTENTS

社会が激変するいま、教育の大改革がはじまりました



*****教育の大改革が進行中!*****
 いま日本では、「教育改革」が進行しています。
 2019年度で「センター試験」(大学入試センター試験)が終了し、翌年からは、新しくスタートする「共通テスト」(大学入学共通テスト)に切り替わります。
 また、これまで中学校からだった教科としての英語の学習が小学校からになったり、小3から外国語活動がはじまったり、新しい高校の学習指導要領に、「理数探究」や「公共」といった、新しい教科や科目が加わります。
 さらに、小学校から中学校、高校、大学まで日本の教育機関すべてに関わる大変革なものです。
 だからこそ、その全貌を理解し、子どもたちにどのような影響があるのかを俯瞰的に把握して、事前に対応することはとても大切なことです。
 本書では、その大変革のなかで最も変化の大きい「英語」について、小学校、中学校、

*****高まる英語の必要性*****
 高校のセグメントごとに、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の観点から説明します。
 まず、このような教育の大改革が必要となった、その背景について考えてみましょう。私たちの社会は少子高齢化とともに急激に変わっています。生産労働人口が急減し、慢性的な人手不足が続くなか、人工知能(AI)の活用や外国人労働者の受け入れもはじまりました。
 インターネットや交通インフラの発達により、グローバル化も進行。国境を越えた人・モノ、情報の移動が活発になっていきます。
 こういった状況のなか、外国語、とりわけ**英語によるコミュニケーション能力の必要性**が高まっています。それは一部の業種や職種に限った話ではありません。これまでは英語とは無縁だった人々も、



生涯にわたりさまざまな場面で英語が必要となりはじめています。
 また、その学び方も従来と同様ではありません。**「聞く」「読む」「話す」「書く」といった多技能を統合的に学び、実用的なコミュニケーションができる**ことが求められています。
 (注)学習指導要領の「外国語活動」や「外国語」は、英語に限ったものではありません。しかし多くの学校で英語を選択しているため、本書では英語と表現しています。

第1部 英語教育改革ってなに?

- ・社会が激変するいま、教育の大改革がはじまりました 1
- ・学年が1つ違うだけで、準備は大きく異なります 2
- ・新学習指導要領の注目ポイントを整理します 3
- ・日本の英語教育レベルの抜本的な引き上げが行われます 4
- ・英語の使用レベルを表す指標・CEFRについて説明します 5
- ・大学入試で『英語の民間資格検定試験』の利用はどうなったのか? 6
- ・日本の学校教育における英語はどうなっているのでしょうか? 7
- ・大学入試改革 英語4技能試験はどうなる? (国公立編) 8
- ・大学入試改革 英語4技能試験はどうなる? (私立編) 9

第2部 小学校・中学校・高校 それぞれの現状とこれからの変化

- 小学校の英語はこうなる!** 10
 - ・小学校英語と移行措置
 - ・『Let's Try!』と『We Can!』のカリキュラムと特徴
 - ・中学受験における英語入試の現状と展望
- 中学校の英語はこうなる!** 16
 - ・教育改革のスケジュールとその影響
 - ・英語学習のココが変わる
 - ・変わり続ける公立高校入試
- 高校の英語はこうなる!** 22
 - ・変わる授業と大学入試
 - ・共通テストと4技能
 - ・大学入試の変化~国公立大学と私立大学の対応

第3部 特集

- 認定試験8種の特徴** 28
 - ・英検®/ケンブリッジ英検/TEAP/TEAP CBT/GTEC/TOEFL iBT®/TOEIC®/IELTS
 - ・どれを受ける?いつ受ける?自分にあった試験の選び方

付録	国立大学~2021年度入試(一般選抜)の認定試験活用方法一覧 32
	教育改革と新学習指導要領のスケジュール/CEFRの基準と認定試験との対照表 33